

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和2年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(電動ロクロ) ・一日体験教室(手びねり) ・一日体験教室(伝統釉薬体験) ・親子陶芸教室 ・陶芸祭体験教室	●一日体験教室の開催 □電動ロクロ体験開催数	10回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	【成果】 ・陶芸の普及と市民の作陶技術支援のため、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に対応しながら、講座内容とスケジュールの変更と工夫を重ねました。 ・4月の休館中に年間の講座スケジュールの見直し、自由作陶教室、第2自由作陶教室以外の教室は全て中止、変更しました。早めの対応により(陶芸の性質上、講座途中での急な中止が難しいため)、感染拡大防止による途中中止による、混乱を回避することができました。 開催した人気の高い講座(自由作陶教室、第2自由作陶教室)は安定した利用、受講申し込みがありました。緊急事態宣言による4月、5月の休館により、利用率50%台からのスタートでしたが徐々に回復し、9月には75%まで利用率が伸び、秋以降は減少することなく、維持することができました。 ・初級、中級講座を中止したため、初心者の方も自由作陶教室の申し込みも可能にしました。それに伴う対応として、講師と連携を図り、柔軟な講座の開催に取り組みました。 ・徹底した感染症対策が利用者の信頼と安心を得ることができました。そのため、すでに利用されている方の紹介による(口コミによる)新規利用者の増加がありました。対策としては、3密回避に教室を2カ所に分散(部屋に対して定員を50%)、各部屋ごとの換気の徹底、陶芸道具類の消毒作業に取り組みました。 ・継続して陶芸を楽しんで頂けるように、新規釉薬(7種類)粘土(3種類)を期間限定利用可能にしました。新規釉薬、粘土の期間限定利用は利用者の反応も良く、新規粘土は総計456kg、300名に利用がありました。 ・一日体験教室の要望も多かったため、感染症対策を講じながら、短時間、少人数、完全予約制の体制に講座内容を変更し開催しました。1日2名限定、計14日の少ない募集でしたが、ホームページ掲載後、1週間以内に全て定員に達しました。企画から募集まで、短い期間でしたが、短時間で楽しんで頂ける内容にするため、これまでの講座運営の経験と講師との綿密な連携により、迅速な講座開催が可能となりました。 【課題】 ・近年は自由作陶教室の利用者の高齢化(70歳以上)による諸問題への対応が課題となっています。段差解消や整理整頓による動線を確保し、転倒事故防止対策も強化します。 ・陶芸の普及のため20代~50代の方にも自由作陶教室の受講に繋がるような広報周知の工夫改善が必要です。 ・未就学児から大人の方まで、幅広い年齢層に陶芸の普及支援を行うため、一日体験講座、親子陶芸教室、団体教室など、講座内容を見直し、興味を喚起する企画を目指します。 ・SNSを活用し、動画配信等、若い世代にも陶芸の魅力が伝わる広報の展開が課題です。
		□目標利用者数	100人	0人	-		
		□手びねり体験開催数	6回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	60人	0人	-		
		□伝統釉薬体験開催数	3回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	36人	0人	-		
		□親子陶芸教室の開催 □開催数	10日/年	0日/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	330人	0人	-		
	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室 開催 □開催回数	4日間	0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止		
	□目標利用者数	120人	0人	-			
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級 ・電動ロクロ初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	0回/年、0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	210人	0人	-		
		●手びねり中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	0回/年、0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	210人	0人	-		
		●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	0回/年、0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	168人	0人	-		
		●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	0回/年、0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	168人	0人	-		
	◆自律型教室の開催 ・自由作陶教室 ・第2自由作陶教室	●自由作陶教室の開催 □開催日数	349日	289日	-	自由に作品を制作する。3密回避のため教室を2カ所に分散して開催。	
		□目標利用者数	7,450人	5,421人	-		
		●第2自由作陶教室の開催 □開催日数	48日	42日	-	自由に作品を制作する。3密回避のため利用定員を半数にして開催。	
		□目標利用者数	1,120人	523人	-		
	◆気軽に陶芸を体験してもらう取組 ・伝統釉薬を使用する1日作陶体験 ・陶芸祭での事前予約なしの体験の場の提供 ・各種媒体を使った広報 4 ・在留外国人向けの英語のチラシ・パンフレット作成 ・障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案 ・映像による紹介	●気軽にできる陶芸体験 □伝統古典釉薬を使用する一日体験の開催(再掲)	3回/年	0回/年	-	短時間、少人数、予約制、さまざまな技法を毎回設定	
		□予約無しでの陶芸体験	4日間	0日間	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
■新聞・タウン情報誌・陶芸関連書籍、フェイスブック、ヨコハマアートナビ、公園内に看板掲示による情報発信		実施	実施	(未実施もあり)	-	ホームページ、SNS、地域情報誌「ぼど」、公園内看板は実施。新聞折り込みは未実施。	
■一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成		実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止		
■教室内の動線を確保するため、整理整頓を心がける。		実施	実施	-	教室レイアウト変更、電動ロクロの配置換え		
■映像によるロクロ技法や施釉技法、陶芸祭、穴窯焼成などの紹介		実施	実施	-	講座教室内テレビ画面で放映、ホームページ動画による放映		
◆次世代育成の取組 ・解説資料や映像による興味喚起	●作陶活動への興味を喚起 ■焼き物に関する解説と資料の配布	実施	実施	-	土鍋土取扱い資料作成		
	■一日体験講座の開始までの待ち時間において、解説動画映像を上映する。	実施	実施	-	お試し一日体験講座開始までの待ち時間において、上映		

【評価できる点】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、講座スケジュールの見直しを素早く行ったことで、利用者との混乱を避け、粘土等の不要な在庫をだすこともなくスムーズな施設運営を維持したことを評価します。

コロナ禍でも利用者のニーズを汲み取っての体験講座の開催を確認しました。

自立型教室については、新型コロナウイルス感染症拡大防止による人数制限等で利用者の減少はありましたが、高い在籍率に戻したことを評価します。

還元焼成利用者の減少に対して、新規粘土の導入により利用者の興味を引き、利用者の増加に繋げたことを評価します。

経費とのバランスと取りながら、紙媒体(チラシ、広告掲載)、施設ウェブサイト、SNSなど様々な手法により広報を行っていることを確認しました。

【更なる取組を期待する点】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、体験型教室を見直したことにより、新規利用者拡大の取組が減ってしまったため、感染症の状況に注視しつつ、徹底した感染対策の下、体験講座の実施を期待します。

利用者の高齢化が進んでいます。施設の活性化のため、幅広い世代の方々に施設を「認知」、「利用」、「継続」となってもらう取組を期待します。

より効果的な広報・プロモーション手法の検討・実施、三溪園や本牧市民公園の利用者など、新たな層の市民の方が施設を知り、陶芸に興味を持つことにつながる効果的なアプローチを検討してください。

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 市民の主体的な作陶活動の支援	1	◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底教室 ・絵付け教室 ・特定のやきもの教室(チャレンジ講座) ・週末2日間陶芸講座 ・週末3日間陶芸講座 ・陶芸入門5日間講座 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・三溪園共催企画 ・楽焼焼成講座、サヤ鉢焼成講座等 ・招待作家講座 ・穴窯焼成講座	●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室	1回(4日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
		□目標利用者数	52人	0人	-		
		□絵付け教室	2回(6日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	60人	0人	-		
		□チャレンジ講座	3回(15日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	165人	0人	-		
		□週末2日間陶芸講座	5回(10日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	120人	0人	-		
		□週末3日間陶芸講座	4回(12日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	120人	0人	-		
		□陶芸入門5日間講座	1回(5日間)/年	0回(0日間)/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
		□目標利用者数	50人	0人	-		
		■還元焼成講座の随時開催	実施	実施	-	焼成方法(酸化焼成・還元焼成)による作品の色の変化を楽しむ。新規導入粘土(軟土)に適した焼成方法	
		□目標利用者数	750人	525人	-		
		□大物焼成講座の開催	2名/月	2名/月	-	4月、5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。6月以降実施。350mm×400mm×450mmの大きさ作成可能。	
		□目標利用者数	24人	20人	-		
○□三溪園共催講座	1回	0回	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止			
□目標利用者数	48人	0人	-				
□絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼焼成等の開催	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止			
●□招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間)	1回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止			
□目標利用者数	20人	0人	-				
□穴窯焼成講座の開催	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止			
□目標利用者数	65人	0人	-				
2	◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・利用者の作品発表の場として、陶芸祭時に作陶展を4日間開催	□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 全国公募・横浜アマチュア陶芸展開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催	1回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
3	◆(指定期間5年間において)新講座、実験的講座の開設	■新講座として、週末2日間講座、5日時間陶芸入門基礎を開設	実施	変更	-	新規講座として短時間・予約制の一日体験講座を実施	
4	◆チャレンジ講座の開催	■講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開設	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
3 市内の公益的作陶活動に対する支援	1	◆陶芸指導者対象の研修講座の開催	●陶芸指導者研修講座 □開催数 □目標利用者数	1回/年	0回/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
		□目標利用者数	22人	0人	-		
	2	◆公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等、陶芸知識の発信による基地化	●■小中高校・特別支援学校・養護学校に対して、作陶活動に必要な情報や質問に対応し、研修や電話相談での陶芸知識発信に努める	実施	実施	-	市内、県外在住の方から陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等、相談対応
		◆団体教室・出張教室の対応等、陶芸知識の発信による基地化	●陶芸知識の基地化 ■団体・出張教室での対応の難しいケース(作品の種類・重量・既存の電気炉の有無・経費)は、陶芸センターで講座受入が可能か判断し、積極的に対応する	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
	3	◆団体教室の開催	●団体教室の開催 □開催数 □目標利用者数	17件/年	0件/年	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
		□目標利用者数	350人	0人	-		

【成果】
・年々利用が減っていた還元焼成講座の利用アップのため、還元焼成に特化した新規粘土(軟土)を導入しました。10月には昨年度平均の約5.5倍の利用がありました。通常の焼成方法とは違う作品の焼き上がりを利用者が実感し、陶芸の魅力を経験して頂きました。来年度も利用したいという要望を多数頂きました。季節に合わせた土鍋土も盛況でした。
・新規講座を秋の一日体験講座に於いて、実験的講座として開設しました。これまで一日体験では取り扱っていない技法、テーマを設定し、短時間で本格的な陶芸体験を可能にしました。一日体験受講者アンケートより受講者全員から、体験内容について「満足」の結果が得られました。
・昨年度コロナにより日程途中で中止になった講座の追加開催しました。講座の最終工程の「釉薬掛け」作業体験を実施。自由作陶教室の新規受講申し込みに繋がりました。

【課題】
・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初計画していた多くの講座、陶芸祭が中止となりました。新型コロナウイルス感染症が収まった際、各種講座がよりレベルアップした内容と興味関心を頂けるように、早めの計画と企画の練り直しが必要です。
・R2年度盛況だった季節に合わせた粘土、産地の焼き物の粘土を、来年度もバージョンアップさせて導入する。
・感染症対策として講座の人数を減らして開催する分、受講料の値上げを検討します。その分、利用者に満足して頂ける講座内容、作品の完成度が上がるように、講師と連携をとり、早めの試作と計画に取り組みます。

【成果】
・今年度も陶芸技法、窯、焼成技法等多岐に渡り、電話相談により対応しました。
・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催まで漕ぎつけることが出来ませんでした。出張教室の可能性、短時間で手軽に可能な陶芸体験企画、サンプル試作に取り組みました。来年度、コロナの収束状況によって、新たな追加講座開催の準備に取り組みました。

【課題】
・新型コロナ感染症が収まった後、これまで利用して頂いた団体への周知広報活動と、広く市民周知する方法の検討が必要です。

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	1	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施	実施	-	登り窯の構造断面図を掲示	【成果】 ・ホームページをウェブアクセシビリティ対応(AA)に修正しました。 ・紙媒体の記事の掲載として「ぼど」に掲載しました。 【課題】 ・コロナにより中止していた陶芸祭(陶芸と市民を結びつける場として)を今後、時代に合った形式でどのように展開していくかが課題です。 ・いろいろな方が陶芸体験できるように幅広い周知活動を進める。 ・地域活性化の一躍となるように、近隣施設と連携を強化します。
			■象徴的扱いとし、印刷物等で写真を使い紹介	実施	実施	-	フェイスブックにて紹介	
	2	◆(指定期間6年間に)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
			■陶芸祭での三渓園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
	3	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■陶芸祭来場者への対応	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
			■予約無しでの陶芸体験の実施	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
			■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
	4	◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■ホームページ、SNSを活用して作陶講座等の情報を発信する。	実施	実施	-	フェイスブックにて施設案内、陶芸技法の紹介	
			■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施	実施	-	臨時の追加一日体験講座チラシ作成	
			□陶芸祭チラシの作成、配布	年1回	年0回	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
			■紙媒体への記事掲載の推進	実施	実施	-	情報誌「ぼど」掲載	
			■ホームページの講座案内年度切り替え	実施	実施	-	ホームページをウェブアクセシビリティ対応(AA)に修正	
			□ホームページの最新情報の更新	1回以上/月	1回以上/月	B		
	5	◆一般見学者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じた相談等の情報発信。	■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施	実施	-	一般見学者数575人	
			■電話・ホームページでの陶芸に関する質問への対応	実施	実施	-	市内、県外在住の方から陶芸材料、成形技法、陶芸窯、電動ロクロ修理等、相談対応	
5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション	1	◆Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	-	ホームページ、SNS、地域情報誌「ぼど」、ヨコハマアートナビWEB版、	
			■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	-		
	2	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■無料の全国規模の習い事サイトなどへの情報提供	実施	実施	-	ぼどWEB版、ミレアWEB版、マグカル・ドット・ネットWEB版、ヨコハマアートナビWEB版	
			■陶芸祭「全国公募・横浜アマチュア陶芸陶芸フェスティバル」を通して近隣地区及び全国的に知名度を上げる	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
	3	◆(指定期間6年間に)陶芸センターの知名度アップ	■メディアの取材に対する積極的対応	実施	未実施	-	取材依頼なし	
			■一日体験の英語版チラシの情報発信	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	
	4	◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語で受講できる自由教室受講の案内	実施	未実施	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和2年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	6/1より毎日	-	6/1よりすべての開館日の清掃	【成果】 ・経年劣化による事務所空調機の部品交換修理を実施しました。 ・横浜市との日常点検情報共有により、屋根の塗装工事の実施(横浜市予算)、施設の長寿命化対応を実施しました。 ・屋根雨樋の松葉掃除、施設周辺の草取りを実施し、建物美観環境の維持に努めました。 ・緊急事態宣言による休館中に施設内掃除、陶芸道具メンテナンスを実施しました。 【課題】 ・今年度も蛍光灯交換作業等(自前修繕)が多数あり、施設全体の老朽化(経年劣化)が進んでいます。講座室、自由作陶教室、貸室の空調機の不具合(部品劣化のため、交換必要)もあり、完全に故障する前に早めの改修が必要です。 ・外登り窯の柵、トタン屋根の錆、劣化も酷く環境維持の修繕が課題です。	【評価できる点】 日常の清掃や定期的な保守点検等が適切に実施されていることを確認しました。 稼働率が高い施設のため、新型コロナウイルス感染症の影響による休館期間を活用し、通常できなかった箇所メンテナンス等に取り組んだ点を評価します。 ソーシャルディスタンス確保のためのレイアウト変更など、徹底した新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を確認しました 【更なる取組を期待する点】 築50年以上となり、老朽化が進んでいる中、引き続き小破修繕を適切に実施するとともに、施設の不具合箇所を本市と共有するようお願いします。
		□定期清掃	2回/年	2回/年	B			
		■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	-	毎日の管理標準チェックリストの記録		
		■施設設備の日常点検	実施	実施	-	毎日の見回り点検の実施、屋根塗装工事(横浜市による)		
		■早めの自前小破修繕による高額修繕費支出回避	実施	実施	-	土練機、電気窯、電動ロクロ、換気扇修理、釉薬床シーラ塗装		
		□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年	B	年2回の定期点検実施、事務所空調機修理		
	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■給排水設備点検	随時実施	実施	-	毎日の点検、水道栓修理3件		
		□電気設備点検	毎月実施	実施	B	毎月の電気施設簡易点検と自主簡易点検		
		□ガス設備点検	毎月実施	実施	B			
		□消防設備点検	2回/年	2回/年	B	年2回の非常警報設備、非常避難路、消火器の点検		
		□窯業機械の機能点検	毎月	実施	B	毎月の窯業機械機能点検の実施		
		□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	B			
◆公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	■下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないように管理	実施	実施	-	毎日の下洗い箱の設置			
	□排水溝、樹の掃除・汚泥量の記録	2回/年	2回/年	B	年2回の排水樹からの汚泥排出と汚泥量の記録			
	■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	実施	-	年5回の屋根松葉清掃と年10回の登り窯周辺の草刈実施			
◆工事修繕他による車両の出入りの連絡調整	■工事修繕他による車両の出入りの連絡調整	実施	実施	-	毎月のゴミルート回収車、電気設備工事車、自動販売機の入れ替え業務、陶芸材料搬入の公園内通行の連絡調整			
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■見回り点検により、早めの修繕を行い、高額修繕に至らない様、適切な維持管理	実施	実施	-	自由作陶教室蛍光灯LED交換取付	【成果】 ・毎日の見回り点検による早めの自前修繕を実施しました。 【課題】 ・経年劣化による蛍光灯交換経費が増加しています。	
		■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	-	作陶台、工具棚、釉薬ブース、看板、防蚊ネット、水道栓、修理		
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	-		【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、利用者の安心、信頼を得ることができました。「体調確認書」「消毒マニュアル」「個人情報取扱・削除書」作成し管理体制を整理しました。 【課題】 ・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止を実施し、利用者が安心して利用できる施設を目指します。	
		□AED操作研修	2回/年	2回/年	B	年2回の防災訓練時にAED操作説明		
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	-	退館時のWチェック体制の実施		
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	-			
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	-	・感染症対策の陶芸道具類、施設内消毒ガイドライン作成 ・消毒作業1日2回 ・飛沫防止アクリル板、非接触型赤外線温度計設置		
		■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	-			
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	-	総合警備保障(株)による24時間機械警備、監視カメラ4台設置		
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■災害対策マニュアルの整備	実施	実施	-		【成果】 ・災害備蓄の点検・更新を実施しました。 【課題】 ・近隣施設と連携し、災害訓練の見直しも必要です。	
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	B			
		■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	-	焼成管理、防災管理の徹底		
◆廃棄物の抑制と適切な処理	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する ■産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	□防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	3回/年	A	年3回の防災用品の更新	【成果】 ・適正な廃棄物処理に取り組みました。 【課題】 ・特筆すべき事項なし	
			実施	実施	-	毎日の管理 毎月の産廃のチェックの実施とルート回収による廃棄		
5 その他管理に関する事項			実施	実施	-			

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和2年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 適切な収支構造及び収支バランス	◆適切な収支構造及び収支バランス	■収益の改善と固定経費の抑制努力	実施	実施	-	収益改善の追加講座実施	【成果】 ・在庫管理を徹底し、計画的な期間限定の粘土、釉薬の仕入れにより(不在在庫なし)収入増に繋がりました。 ・年度始めの早期(4月、5月緊急事態宣言による休館)より、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、広告宣伝費、印刷機保守契約解約による経費削減、陶芸材料・粘土・釉薬の計画仕入れによる経費支出の見直しに取り組みました。 【課題】 ・今後とも計画仕入れに取り組みます	【評価できる点】 ・新型コロナウイルス感染拡大により利用の減少などの外部的影響があったなかでも、期間限定の粘土や釉薬の販売、講座受講料の値上げなど、収入増加のための取組を進めたことを評価します。 ・コロナ禍を鑑み広告宣伝費等の経費の削減及び陶芸材料等の支出の見直しを確認しました。
		■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	-	新規粘土の予約販売、計画仕入れの徹底、在庫ロス		
		■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握	実施	実施	-	毎日の見回り点検		
		■利用増加が見込める新規講座の企画	実施	実施	-	期間限定粘土の導入(利用者数300名)		
		■四半期末での収支の予測	実施	実施	-	臨時の一日体験講座受講料見直し、新規粘土、焼成費改訂		
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	-		【成果】 ・期間限定の粘土、釉薬・粘土の追加、還元焼成、粘土代、受講料(見直しによる値上げ)が収入増に繋がりました。 【課題】 ・期間限定粘土、釉薬をさらに検討し、収入確保に取り組みます	【更なる取組を期待する点】 新規講座の企画や期間限定の販売など利用者及び収入増加のための取組等、引き続き収支バランスに配慮した運営を期待します。
		■興味を喚起する新規講座を企画検討し、利用料増収を図る	実施	実施	-	・収入の見込める粘土・釉薬期間限定販売 ・追加一日体験講座実施		
		■独自グッズの開発、販売の可能性を図る	実施	未実施	-	検討中		
		■消耗品、事務用品の節約による事務経費削減、利用者からの古新聞・古布の再利用	実施	実施	-	利用者、文化振興課から消毒剤、マスク、新聞紙、雑巾、陶芸小道具等寄贈による経費削減		
		■不用になった陶芸関係書籍の寄贈を積極的に受け入れる	実施	実施	-	利用者より陶芸図書の寄付		
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	実施	-	粘土・釉薬輸送コスト削減		
		■液化燃料(灯油)の直接購入による経費削減	実施	実施	-	年間96,000円の削減		
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	実施	-	職員の自前修繕による経費削減		
		■窯業機械の毎月の機能点検により高額修繕に備える	実施	実施	-	窯業機械修理、点検		
		3 経費削減及び効率的運営努力	◆経費削減等効果的運営の取組	■固定経費削減、自前修繕・修理による経費削減を実施しました。				
■横浜市(屋根塗装工事)、利用者(梱包材寄贈)の協力を得ながら、施設運営に努めました。						利用者より陶芸図書の寄付		
■灯油の直接買い入れによって、年間96,000円の削減ができました。						粘土・釉薬輸送コスト削減		
■収支のバランスを確保しながら、利用者、スタッフに於いても、より良い環境の施設を目指します。						年間96,000円の削減		
						職員の自前修繕による経費削減		
						窯業機械修理、点検		

令和2年 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和2年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
	1			<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止(緊急事態宣言)のため、休館からのスタートとなりました。利用者、スタッフの安全安心を守るため、徹底した感染症対策(換気、消毒作業、検温)に取り組みました。コロナ禍において、感染症対策が利用者の信頼につながり、受講者数が少しずつ改善しました。休館により減少した受講者数が秋には昨年度の休館前まで回復し、そのまま維持することができました。また、利用者の制作意欲向上のため、季節に合わせて粘土、釉薬の導入は利用者へ盛況な人気を得ることができました。そしてコロナの感染状況を考慮しながら、追加の新規講座(一日体験講座)を開催しました。少人数・完全予約制、受講料の見直し、講座内容・技法の見直しに取り組みました。制約がありましたが、これまでの講座内容を改善する良い機会にもなりました。また、利用者の満足度に繋がりました。受付事務業務内容の見直し(簡略化、業務マニュアルの見直し、可視化)を進めました。働きやすい環境作りの改善を今後も進めていきます。陶芸の専門性を活かし、窯業機械のメンテナンス、全国各地からの陶芸に関する様々な質問相談を電話にて対応しました。コロナ禍において「閉館しないで欲しい」という要望も多数あり、利用者の日常にとって大切な役割をはたす事ができたと感じました。来年度以降も今年度取り組んだ経験を講座運営に活かし、さらなる改善を進めていきます。利用者・スタッフにおいて陶芸施設としての満足度向上をめざします。いろいろな方が幅広く楽しめる陶芸施設となるよう尽力していきます。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年でした。その中であっても、自立型教室の在籍率を通常期と同程度まで回復できたのは、レイアウト変更やパーティションの設置など、徹底した対策や普段からのコミュニケーションにより、構築された利用者等との信頼関係があったからこそその成果だと評価します。</p> <p>リピーターの多い施設のため、利用者の制作意欲の向上や興味を引く取組はとても重要であり、新しい粘土や釉薬の導入、わかりやすい資料の作成など、新たな取組が好評を得たことも、自立型教室の高い在籍率に繋がっていると考えます。</p> <p>SNSや動画を活用し、施設の知名度向上や陶芸に興味を引く取組が確認出来ました。引き続き、広報・プロモーションについて、費用と効果のバランスを取りながら効率的に行うことを期待します。</p> <p>コロナの影響による、事務員の急な退職に対し、受付業務の簡略化、業務マニュアルの修正、業務の効率化など、新たに人を迎えやすくする取組や持続的に施設の運営を進めていくための取組を評価します。</p> <p>職員のワークライフバランス及び安定した施設運営という視点を強く意識した、本社を含めた対策を期待します。</p>